

極東開発工業

適用範囲		モデル名		PY165-39	
		主仕様	吸吐弁形式	-	スイング
			最大吐出量	m ³ /h	165
			最大吐出圧力	Mpa	8.5
			アーム最大地上高	m	38.3
適用号機		24P05-0008~			
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値	
圧送装置	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min	35±2	
		ローター回転数	回/min	-	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2600±25)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1714±20)	
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)	
	カクハツウチ 攪拌装置	回転速度	min ⁻¹	49±3	
		チェーンのたわみ	mm	20・チェーン中央	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2600±25)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1714±20)	
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)	
	真空ポンプ	圧力設定値	MPa	-	
		(設定値到達時間)	(min)	(-)	
圧力降下許容量		MPa	-		
(保持時間)		(min)	(-)		
Vベルトのたわみ	mm	-			
作業装置	シリンダー 自然降下量	ブーム(1)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(2)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(3)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(4)シリンダー	mm	0.5 以下	
		ブーム(5)シリンダー	mm	-	
	(測定時間)	(min)	(10)		
	(作動計測条件)		(-)		
	(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No.4]		
	☆ ブームシリンダー 作動時間	ブーム(1) 伸び	sec	75±10	
		縮み	sec	110±10	
ブーム(2) 伸び		sec	115±10		
縮み		sec	135±10		
ブーム(3) 伸び		sec	90±10		
縮み		sec	110±10		
ブーム(4) 伸び		sec	80±10		
縮み	sec	100±10			
ブーム(5) 伸び	sec	35±10			
縮み	sec	65±10			
(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2600±25)			
(作動油温度)	(°C)	(50±10)			
(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No.6]			
洗浄装置	水ポンプ (配管洗浄用)	吐出圧力	油圧 Mpa	20.6±1	
			水圧 Mpa	5.7	
			飛距離 m	-	
	空圧機	吐出圧力	MPa	0.93	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2600±25)	
(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1714±20)			
(作動油温度)	(°C)	(50±10)			

☆印：新車基準値を表す(参考値)

適用範囲		モデル名		PY165-39		
		主仕様	吸吐弁形式	-	スイング	
			最大吐出量	m ³ /h	165	
			最大吐出圧力	Mpa	8.5	
			アーム最大地上高	m	38.3	
適用号機		24P05-0008~				
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値		
油圧装置	☆ 油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	36.0±1		
		弁シリンダー油圧	MPa	19.0±1		
		攪拌モータ油圧	MPa	13.7±1		
		ブーム油圧	MPa	34.0±1		
		ACCガス封入圧力	MPa	7.8±1		
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2600±25)		
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1714±20)		
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)		
		車体・安全装置	☆ 旋回ベアリング	外輪取付けボルトの 締め付けトルク	N・m	1050±35
				取付ボルトの締め付けトルク	N・m	1050±35
☆ 旋回作動速度	旋回速度		sec	240±15		
	(旋回作動角度)		(度)	(365・限定旋回)		
	(油圧ポンプ回転数)		(min ⁻¹)	(2600±25)		
☆ 旋回作動速度	(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1714±20)			
	(作動油温度)	(°C)	(50±10)			
☆ 旋回作動速度	各垂直シリンダー	mm	0.5 以下			
	(測定時間)	(min)	(10)			
☆ 旋回作動速度	自然伸縮量	[図面No.]	[図 No.5]			
	(作業装置姿勢)					
特記事項	1)油圧ポンプは斜板を最大吐出量の状態にすること。					
	2)標準圧送システムの場合について示す。					
	3)自動給脂より給油されていることを確認すること。					
	4)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。					
	5)締め付けトルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪 又は内輪)のボルト全数交換					
	6)ブーム制振装置 ACCガス封入圧力13.8MPa					

☆印：新車基準値を表す(参考値)

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	<p>図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)</p>
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	<p>図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢</p>

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	<p>図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)</p>

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	<p>図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)</p>
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	<p>図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢</p>

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	<p>図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)</p>